

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所長

令和8年度農作物病害虫発生予報第8号を發表したので送付します。

徳島県

(2)葉裏にも十分な量の薬液がかかるよう丁寧に散布する。

(3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

II. 果樹

カンキツ

黒点病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 8月11～15日に行った温州みかん巡回調査では、調査ほ場全8地点で枯枝から黒点病菌の発生を確認した。発生圃場率が100%と、平年(61.9%)に比べてやや高い。

(2) 高松地方气象台が8月13日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か少なく、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 枯れ枝を極力除去する。せん除した枝は園外へ持ち出して処分し、病原菌密度の低下に努める。

(2) 薬剤散布において、散布間隔の目安は1か月とする。ただし、散布後の降水量が合計200mmを超えたときはその限りではない。

ミカンハダニ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

(1) 8月11～15日に行った巡回調査では、発生圃場率が50.0%、寄生葉率が9.1%と、平年(54.8%、5.8%)並の発生である。

(2) 高松地方气象台が8月13日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か少なく、日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

(2) 葉裏にも十分な量の薬液がかかるよう丁寧に散布する。

(3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

ナシ

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 8月11～15日に行った巡回調査では、発生圃場率が14.3%と、平年(29.6%)に比べてやや低い、発病度は0.2と、平年(0.8)並の発生である。

(2) 高松地方气象台が8月13日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か少なく、日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 早期落葉すると樹勢を弱めるので、発生の多い園では収穫後にも防除を行う。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年よりやや多い)、発生程度は「中～多」

2) 予報の根拠

(1) 8月11～15日に行った巡回調査では、発生圃場率が100%と、平年(79.3%)に比べてやや高く、寄生葉率は49.0%と、平年(16.8%)に比べて高い。

(2) 高松地方气象台が8月13日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か少な

く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。
- (3) 葉裏にも十分な量の薬液がかかるよう丁寧に散布する。
- (4) 早期落葉すると樹勢を弱めるので、発生の多い園では収穫後にも防除を行う。

果樹共通

果樹カメムシ類(ツヤアオカメムシ、チャバネアオカメムシ等) (令和8年5月13日、8月3日付けで注意報発令)

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年より多い)、発生程度は「多」

2) 予報の根拠

- (1) 8月11～15日に行ったナシにおける巡回調査では、被害果の発生圃場率が12.5%、被害果率が0.5%と、平年(12.5%、0.3%)並の発生である。
- (2) 7月16日から8月15日の予察灯調査において、勝浦町では、ツヤアオカメムシが1,035頭と、平年(302頭)の3.4倍、チャバネアオカメムシが1,565頭と、平年(471頭)の3.3倍誘殺された。また、上板町では、ツヤアオカメムシが619頭と、平年(79頭)の7.8倍誘殺されたが、チャバネアオカメムシは288頭と、平年(210頭)並の誘殺となった(表1)。
- (3) 高松地方気象台が8月13日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か少なく、日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生助長的な気象条件である。

表1 予察灯への果樹カメムシ類の誘殺数

[ツヤアオカメムシの誘殺数]

月	半月	勝浦町			上板町		
		2026年	2025年	平年	2026年	2025年	平年
7	4	119	7	41	60	1	22
	5	393	4	35	108	0	7
	6	339	14	73	111	2	18
8	1	80	24	74	236	0	11
	2	104	21	80	104	2	21
	3		23	107		0	27

[チャバネアオカメムシの誘殺数]

月	半月	勝浦町			上板町		
		2026年	2025年	平年	2026年	2025年	平年
7	4	409	3	88	36	3	57
	5	271	3	49	51	0	33
	6	401	6	128	23	5	58
8	1	339	26	91	46	0	29
	2	145	23	115	132	4	35
	3		69	119		12	47

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 果樹園周辺の雑木林から成虫が飛来するので、園内を巡回し飛来に注意するとともに、飛来を認めたら早急に防除を行う。
- (2) 夜行性なので、薬剤の散布は夕方か早朝に実施すると効果が高い。
- (3) 移動性が大きいので、広域一斉防除により防除効果の向上に努める。
- (4) 合成ピレスロイド系剤は、殺虫効果と吸汁阻害効果に優れ、残効も長いですが、天敵への影響が強く、ハダニ類やアブラムシ類の多発を招く場合があるので注意する。

II. その他

- 1) 防除にあたっては、圃場をよく観察し、適期を逃さないようにする。
- 2) 薬剤の使用にあたっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないように注意する。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所

URL: <https://www.pref.tokushima.lg.jp/tafftsc/t-boujoshou/>

○ 病害虫の発生予察情報、発生状況、防除法等をお知らせしています。